

# 令和5年度 校内研究

## 令和5年度 北海道函館高等支援学校 校内研究計画

**【本校の校内研究の目的】**

- 1 本校の教育課程の改善充実を目指す。
- 2 教職員の専門性の向上を図る。
- 3 教職員の協働意識を高め、チーム学校力を向上させる。
- 4 研究の成果を日常実践に活かすと共に、研究成果を積み重ね、指導・支援におけるHKSスタンダードの確立を目指す。

## 1 研究主題

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

3年次副題：「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手引き」・「学習デザインガイドブック」の活用～

## 2 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方を、学習活動が「生徒自身の学び」になることと押さえ、そのような学習活動となるための基礎・基本としてまとめた「わかる」「できる」「いきる」視点による学習指導と「学習の手引き」の活用により、生徒と教師が同じイメージをもって学習に取り組むことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善ができるであろう。

## 3 主題設定の理由

## (1)研究の経過

本研究は令和3年度から取り組まれた3カ年計画の3年次の研究である。

研究主題は1, 2年次同様に設定し、副題を、

1年次副題：主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

2年次副題：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善「学習の手引き」・「学習デザインガイドブック」の作成

として取り組んできた。

1年次は学習指導要領及び解説等から「主体的…学び」の主旨についての基本的な内容を整理し「『主体的・対話的で深い学び』についての基本的な事項」としてまとめ、教師全員がその内容に沿って取り組んだ研究授業を通して「主体的…学び」による授業改善の在り方を考察し、その成果と課題をまとめた。

2年次は、1年次の成果と課題を基に、本校としての「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の在り方を、学習活動が「生徒自身の学び」になることと押さえ、そのような学習活動となるための基礎的基本的な視点を「わかる」「できる」「いきる」として整理し、「学習デザインガイドブック」としてまとめた。

また、その内容と対応させ、生徒も授業の組み立てや進め方を理解することで、より「主体的な学び」を引き出すことをねらいとし「学習の手引き」を作成した。

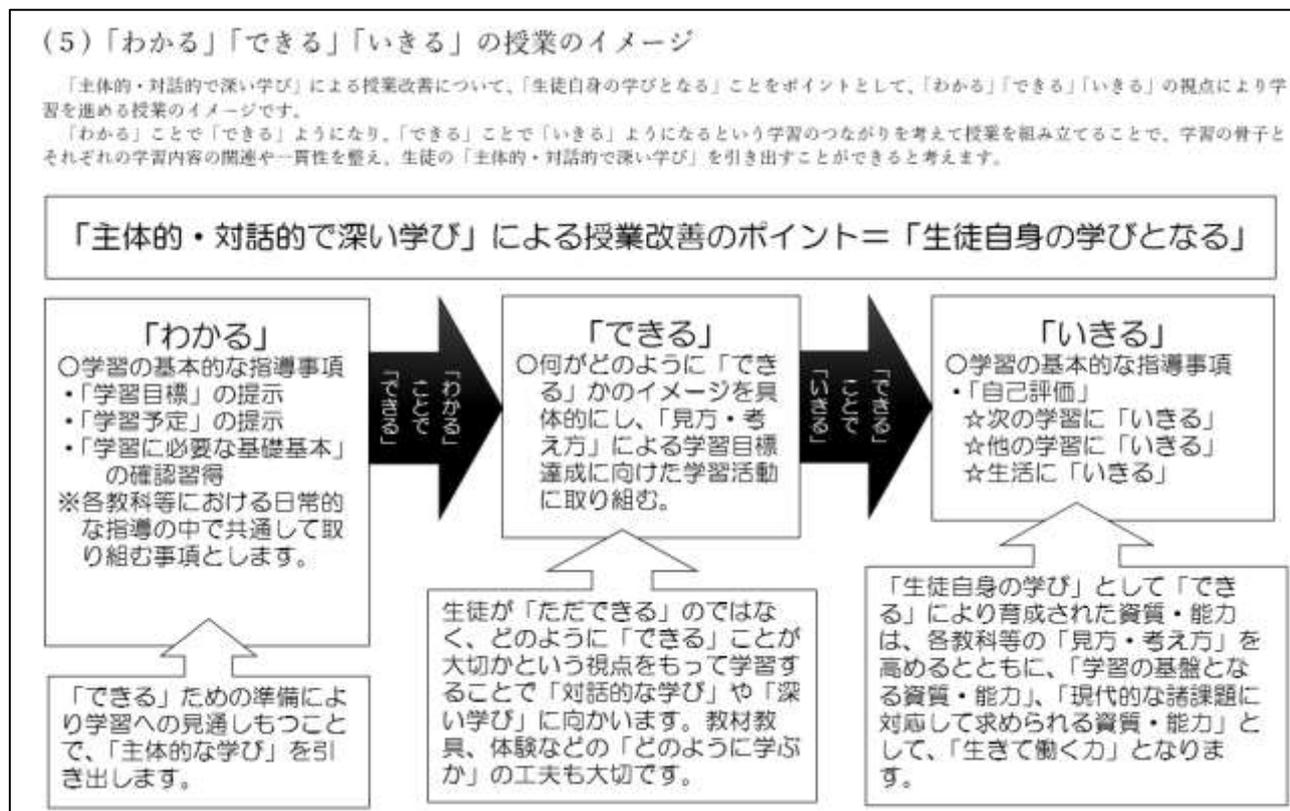
また、校内研究会では「わかる・できる・いきる」の視点による研究授業を実施し、それらの視点が「主体的…学び」の実現に向けた授業改善に対して適切な内容としてまとめられているかを考察し、その考え方や方向性について概ね妥当であるとの共通理解を図ることができた。

## (2)「わかる・できる・いきる」の視点による授業改善

「わかる・できる・いきる」の視点としてまとめた内容の中で、本校の学習指導に具体的に位置づけたものが、「学習の基本的な指導事項」として設定した「学習目標の提示」、「学習予定の提示」、「学習に必要な基礎基本の確認習得」、「自己評価」の4点である。

これらについては、どの教科等においても、各教師が日常の学習で指導することとした。

この4点を指導に位置付け、「わかる」「できる」「いきる」それぞれの視点により授業を組み立てることにより、学習の全体像とその骨子を確かなものとし、生徒が見通しをもって取り組むことのできる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指すこととした。



学習デザインガイドブックより

### (3) 研究の経過を踏まえた今年度の取組

昨年度、2カ年の研究で取り組んだ「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業の在り方を「学習デザインガイドブック」と「学習の手引き」にまとめ、「わかる…」の視点による授業改善は、昨年度後半から各教師の日常実践に反映させることとして取り組んできて、アンケート等で成果や課題は集約してきたが、各教師がどの程度日頃の学習指導に位置付けているかなど、実際の状況を評価してはいない。

また、「学習の手引き」の内容については、今年度始めに生徒への説明を行ったばかりである。

今年度はそれらを実際の授業の中で「活用」し、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善ができたかを評価する1年となる。

このことから、今年度の研究主題の副題は

「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の活用～  
とした。

「わかる…」の視点は、例えば「深い学びを引き出す発問の在り方」のような、具体的な指導技術の向上の参考となる手立てや要点について示したものではない。

学習活動を計画するために必要な基本的な形を整理整頓し、学校全体で共通して取り組むことで、生徒が学習の組み立てやポイントを理解して、見通しをもって取り組める状況をつくり、主体的な学びを引き出そうとするものである。

副題に、この「活用」という言葉を用いたのは、まず、各教師が普段の学習指導で、「わかる…」視点による授業改善に取り組んでいき、それが生徒にも教師にもスタンダードになる状況をつくるのが取組のポイントとなることを示している。

生徒は1度の「学習の手引き」の説明だけでは理解できていない。各教師の「わかる…」視点による授業を重ねる中で、「学習予定」で活動の見通しをもつことや、「学習目標」を理解して、何ができる

よくなればよいか意識しながら取り組むこと、また、そのために「基礎・基本」となる知識や技能を身に付ける大切さなどを理解して「授業の組み立て～3つの段階～」「わかる」「できる」「いきる」を自分のものにすることができる。そのような状況ができた中で見られた生徒の変容が本研究の成果である。

「わかる…」の視点を「活用」することで、それが学習を進める上での生徒と教師の共通言語となり、生徒と教師が「協働」で授業を作っていくながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたより良い授業改善がなされることを目指して、本主題、副題による研究を進め、3カ年の成果や課題をまとめたいと考える。

#### 4 今年度の研究の視点（研究仮説を検証するための具体的な取組内容）

##### (1)「学習デザインガイドブック」の活用

- ア 「わかる・できる・いきる」視点の確認
  - ・「基本的な指導事項」4項目
  - ・各教師の学習指導に反映するポイント
- イ 「わかる・できる・いきる」視点による学習指導
  - ・各教師の日常の学習指導で実践する。
- ウ 日常の学習における指導状況の確認
  - ・6月に教諭対象にアンケートを実施
- エ 実践の成果と課題
  - ・前期終了時に職員全員にアンケートを実施

##### (2)「学習の手引き」の活用

- ア 生徒への配布と説明
  - ・学年集会で「校訓」、「わかる・できる・いきる」「学習のルールとマナー」について説明。
- イ 日常の学習指導での活用
  - ・「学習のルールとマナー」の他、「話し合いのルールとマナー」など、全校で共通理解を図るべき内容は、折に触れて確認していく。
- ウ 生徒へのアンケート
  - ・前期終了時に、「わかる・できる・いきる」授業についてアンケートをとる

##### (3)単元・題材指導計画の作成、改訂作業

各教科等の改訂作業を行うグループを編成し、シラバスで設定している学習内容について、単元・題材指導計画の作成状況を確認するとともに、「わかる・できる・いきる」視点による授業改善の一環として、単元・題材指導計画の新様式での改訂、作成を行う。

※取組の内容等については別途提案

##### (4)公開研究会による外部評価

3カ年の取組による成果を公開研究会において発表し、参加者からの評価を得て、客観的な視点で研究のまとめを行う。

※詳細は公開研究会実施計画参照

## 5 研究推進日程

実施日	内容	校内研究全般の取組	単元・題材指導計画の改訂、作成作業	公開研究会の取組
4月初旬	○「学習デザインガイドブック」配布 ○生徒への「学習の手引き」配布、説明			
5/25(木)	校内研究 1	○R5 校内研究計画提案	○単元・題材指導計画の改訂作業について提案 ○研究グループ希望集約	○公開研究会実施計画提案 ※以降 研究授業者選出
6/15(木)	校内研究 2	○授業改善実践状況アンケート (教師)	○各教科等における単元・題材指導計画の改訂、作成作業 1 ・シラバスに対応した単元…計画の有無の確認 ・作成の問題点、課題の考察	○公開研究会研究授業者決定 ○公開研究会ポスター発表資料制作について
6月中	公開研関連			○指導案作成説明(教務、授業者)
8/23(水)	校内研究 3		○各教科等における単元・題材指導計画の改訂、作成作業 2 ・グループで作業分担 ・各自の担当する単元…計画の作成	
9/1(月)	教務部会			○公開研究会係打ち合わせ(教務内)
9/15(金)	公開研関連			○公開研究会案内発送
9/21(木)	校内研究 4	○授業改善実践状況アンケート (教師)	○各教科等における単元・題材指導計画の改訂、作成作業 3 ・各自の担当する単元…計画の作成	○公開研究会研究授業学習指導案検討 (グループ)
前期終了時	○「学習の手引き」生徒へのアンケート			
10/16(月)	公開研関連			○公開研究会参加申し込み〆切り
10/26(木)	校内研究 5	○授業改善実践状況アンケート結果の評価		○公開研究会研究授業学習指導案検討 (全体)
11/16(木)	公開研関連			○前日準備
11/17(金)	公開研究会(当日)			
2/22(木)	校内研究 6	○校内研究のまとめ	○全教科等の単元・題材指導計画の作成完了	

6 研究グループ 研究グループの編成は、希望集約をして調整し決定します。

(1) 公開研究会研究授業指導案検討グループ（公開研究会研究協議にも参加）

- ア 体育科 体育科、体育 ST
- イ 普通科 普通科
- ウ 食品デザイン科 食品デザイン科、作業担

(2) 単元・題材指導計画の作成、改訂作業グループ

作業グループ	担当者
国語(普通・職業)	「単元・題材指導計画の作成、改訂作業」のグループ編成の考え方は別途提案
社会(普通・職業)	
数学(普通・職業)	
理科(普通・職業)	
音楽(+選択音楽)	
美術(+選択美術)	
保健体育・保健	
職業(普通・職業)	
家庭(普通・職業)	
外国語	
情報(普通・職業)	
特別活動	
総合(普通・職業)	
日常生活の指導	
作業学習(生・食・福)	
自立活動	

7 研究推進の方針・方法

(1) 授業研究について

本校では授業実践に基づく研究推進を基本として、開校3年目まで毎年一人1回の研究授業を行ってきたが、職員数が増え、参観や研究協議などの時間の確保が難しくなったことから、昨年度より各自、3カ年に1回の研究授業に取り組むことに変更した。

しかし、今年度は3カ年研究のまとめとなり、次年度からは新たな研究を進めていくことから、研究テーマや内容も、より学校課題の解決に資するものが必要となると考えられるため、研究授業の取り組み方も、次年度の研究テーマ、内容に合わせて見直すこととしたい。

ただし、研究授業は指導力向上に欠かすことのできない研修であり、研究のテーマに関わらず、授業改善の努力は、学校全体として常に取り組むべきものであることから、研究授業の取組は何らかの形で校内研究に位置付けていきたいと考え、次のように確認することとした。

ア 開校年度からの公開研究会、校内研究会の研究授業サイクルを基本として、毎年研究授業を実施する。(各教科、普通科、職業学科作業学習から1つの研究授業を実施)

イ 初任段階研修3年次までの対象者は初任段階研修の一環として研究授業に取り組むこととする。

公開研究会、及び校内研究会に実施した研究授業(数字は学年)

令和年度	全学科を対象とした各教科・領域等													普通科		職業学科 作業学習		
	国	社	数	理	音	美	保体	職(職)	家	外国(普)	特別	日生	自立	職業	総合	生産	食品	福祉
元															1 普	1	1	1
2	2 食					1 全												2
3				1 食	3 全					1 普								
4			1 数												3 普	2 生		
5							予 定								予 定		予 定	

(2) 研究広報の活用

限られた研修時間を補うために、広報で研究の進め方や、先生方の意見の交流（アンケート結果など）を行う。

(3) 研究紀要作成

令和3，4，5年度のまとめとして作成する。

# 令和3, 4, 5年度 研究のまとめ

# 研究主題

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

# 研究期間

令和3年度から3年計画

今年度は3年目で、まとめの年  
になります。

## 1年次副題

「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

## 2年次副題

「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手引き」「学習デザインガイドブック」の作成～

## 3年次副題

「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手びき」・「学習デザインガイドブック」の活用～

# 1年次の取組

副題：「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

・学習指導要領の読み込み

・「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項をまとめる

「主体的・対話的で深い学び」について、学習指導要領、同解説に示された内容から、その必要性や留意点、配慮事項など、日常の学習に反映させるべきと思われるポイントをまとめ、さらに「知的障害のある生徒の教育的対応の基本」を掲載したものの。

# 1年次の取組

副題：「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

- ・学習指導要領の読み込み
- ・「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項をまとめる

- ・「基本的な事項」に沿って全員が研究授業を実施
- ・成果と課題から本校の「主体的...学び」の在り方を考察

本校の「主体的...学び」のポイント→「生徒自身の学びとなる」  
そのような学びとなるための視点→「わかる」「できる」「いきる」

生徒が、教師の指示通りに活動するだけでなく、目標達成に向けて、自ら考えたり、感じたり、気づいたりしながら活動しているということ。

# 1年次の取組

副題：「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

- ・学習指導要領の読み込み
- ・「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項をまとめる



- ・「基本的な事項」に沿って全員が研究授業を実施
- ・成果と課題から本校の「主体的...学び」の在り方を考察



本校の「主体的...学び」のポイント→「生徒自身の学びとなる」  
そのような学びとなるための視点→「わかる」「できる」「いきる」

# 1年次の取組

副題：「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

- ・学習指導要領の読み込み
- ・「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項をまとめる

- ・「基本的な事項」に沿って全員が研究授業を実施
- ・成果と課題から本校の「主体的...学び」の在り方を考察

本校の「主体的...学び」のポイント→「生徒自身の学びとなる」  
そのような学びとなるための視点→「わかる」「できる」「いきる」

## 【1年次のまとめ】

「わかる...」の視点を、教師だけでなく、生徒にも説明することで、生徒の主体性を引き出すことができるのではないか。→「学習の手引き」の作成も計画

## 2年次の取組

副題：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」「学習デザインガイドブック」の作成～

「わかる」「できる」「いきる」の視点を具体的な指導に反映させるための「学習デザインガイドブック」の作成を開始。

「学習デザインガイドブック」と内容の一部を対応させた、生徒向けの説明資料「学習の手引き」も並行して作成。

研究係が「ガイドブック」「手引き」の原案を作成し、グループに分かれて内容の検討、加除修正を行う。

「学習デザインガイドブック」と

「わかる」「できる」「いきる」

の視点

# 「学習デザインガイドブック」の内容について

- ・1年次より作成は計画されていたが、研究開始時は、具体的な内容は未定。
- ・各教師の研究授業を経て、学習指導要領の「改訂の基本方針」に示された「主体的・対話的で深い学び」の内容を基本として、特に次の2点に重きを置いて考えることとした。

ア 授業の方法や技術の改善のみを意図するものでない  
オ 基礎・基本に課題がある場合は確実な習得を重視

・学習指導要領から「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業の在り方を読み取り、その趣旨に沿って各教師の普段の学習指導を整理整頓し、「生徒自身の学びとなる」ための授業改善の視点を「わかる」「できる」「いきる」としてまとめた。

# 「わかる」

「できる」ための準備として学習への見通しもつことや、学習に必要な基礎・基本を習得し、「主体的な学び」を引き出すための視点

## ○学習の基本的な指導事項

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認・習得

# 「わかる」

「できる」ための準備として学習への見通しもつことや、学習に必要な基礎・基本を習得し、「主体的な学び」を引き出すための視点

## ○学習の基本的な指導事項

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認・習得

→各教科等の指導において指導することとした事項

# 「できる」

何がどのように「できる」かのイメージを具体的に  
して「見方・考え方」による学習目標達成に向けた学習  
活動を工夫し、「対話的な学び」「深い学び」となるた  
めの視点

- 「ただできる」のではなく、どのように「できる」かのイメージを明らかにする。
- そのための、教材教具、体験などの「どのように学ぶか」の工夫。

# 「いきる」

育成された資質・能力が、どこで「生きて働く力」となるか、また、そのような力となるための学習活動を考えるための視点

## ○3つの「いきる」場

- ・次の学習に「いきる」→「見方・考え方」
- ・他の学習に「いきる」
- ・生活に「いきる」

} 教科等横断的な視点

## ○学習の基本的な指導事項

- ・「自己評価」

# 「わかる」「できる」「いきる」の視点の具体的な内容について

## 「生徒自身の学び」となるための視点「わかる」「できる」「いきる」

### 「わかる」

「できる」ための準備として学習への見通しもつことや、学習に必要な基礎・基本を習得し、「主体的な学び」を引き出すための視点

#### ○学習の基本的な指導事項

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得

### 「できる」

何がどのように「できる」かのイメージを具体的に「見方・考え方」による学習目標達成に向けた学習活動を工夫し、「対話的な学び」「深い学び」となるための視点

○授業者が学習目標に対して「ただできる」のではなく、どのように「できる」ことが目標の達成かのイメージを明らかにすること。  
○そのような学習活動となるための、教材教具、体験などの「どのように学ぶか」を工夫すること。

### 「いきる」

育成された資質・能力が、どこでどのように「いきる」かを明らかにして、そこで「生きて働く力」となるために、どのような学習活動が「できる」ことが必要かを考えるための視点

#### ○3つの「いきる」場

☆次の学習に「いきる」

→「見方・考え方」を生かした学習活動

☆他の学習に「いきる」

→教科等横断的な視点「学習の基盤となる力」

☆生活に「いきる」

→教科等横断的な視点「現代的な諸課題に対応する力」

※校訓の活用

○学習の基本的な指導事項

- ・「自己評価」

## 2年次の取組

副題：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」「学習デザインガイドブック」の作成～

「わかる」「できる」「いきる」の視点を具体的な指導に反映させるための「学習デザインガイドブック」の作成を開始。

「学習デザインガイドブック」と内容の一部を対応させた、生徒向けの説明資料「学習の手引き」も並行して作成。

### 【2年次のまとめ】

- ・「学習デザインガイドブック」では、授業における「学習目標、学習予定の提示」「基礎・基本となる知識・技能の確認と習得」「自己評価」の4項目を「学習の基本的な指導事項」として、各教師が日常の学習指導で実践することとした。
- ・「学習の手引き」は、「わかる」「できる」「いきる」の視点の他、「校訓について」「学習のルールとマナー」など、年度初めの学年集会や各授業のオリエンテーションでの活用をねらいとした内容も含めて構成した。

# 3年次の取組

4月

4月に「学習の手引き」を生徒へ配布し、学年集会で内容の説明

教師は「学習目標の提示」など、「学習の基本的な指導事項」とした4項目を日常実践で取り組むことを改めて共通理解

「学習の手引き」の  
「わかる・できる・いきる」

## 授業の組み立て～3つの段階～ 「わかる」「できる」「いきる」

授業で学んだことが、生活の中で生かされる力となるためには、決められたことにただ取り組むのではなく、「何ができるようになれば良いのか」「そのためにどんな努力や工夫が必要か」を考えながら、自分から積極的に学ぶことが大切です。

積極的に学ぶためには、授業の基本的な段階（組み立て）や、学習のポイントを理解することが大切です。

# 【第1段階「わかる」】

授業のはじめには、「<sup>がくしゅうよてい</sup>学習予定」「<sup>がくしゅうもくひょう</sup>学習目標」が<sup>しめ</sup>示されます。また、学習に必要な「<sup>きそ</sup>基礎・基本」を学び、これからの学習への<sup>じゅんび</sup>準備をします。

この3つが学習に取り組むためにとっても大切です。しっかり理解しましょう。

## 1 「学習予定」

学習の期間や進め方を理解し、予定に合わせて学習を進めることができるように<sup>みとお</sup>見通しをもちます。



## 2 「学習目標」

この授業でどんなことを学び、どんなことができるようになるかを表したのが「学習目標」です。

目標をよく理解<sup>りかい</sup>して、学習中には常に意識<sup>つね</sup>して、目標が達成<sup>たっせい</sup>できるように努力しましょう。

## 3 「基礎・基本」

学習に取り組むためには、その基礎・基本となる知識<sup>ちしき</sup>や技能<sup>ぎのう</sup>があります。学習活動は、その基礎・基本を使いながら、さらに高いレベルの学習に取り組めます。

それぞれの授業では、どんなことが基礎・基本となるかを理解しましょう。

## 【第2段階「できる」】

第1段階<sup>だんかい</sup>の「わかる」で理解した「学習目標」を達成するために、学習した基礎・基本となる知識・技能や、みなさんが今まで学習したこと、経験したことなどを基<sup>もと</sup>に、理解を深めたり、技能を高めたり、問題を解決したりしながら、さらに発展させ、力を高める段階です。

この段階で大切なことは「学習目標」を理解して、「何ができるようにになれば良いか」を意識しながら、試行<sup>しこうさくご</sup>錯誤したり、繰<sup>く</sup>り返し練習したりすることです。

また、目標達成に向けて粘<sup>ねば</sup>り強く取り組む意欲<sup>いよく</sup>をもつことも大切です。



## 【第3段階「いきる」】

学習を振り返り、次の学習や生活に生かせるようにする、  
まとめの段階です。

### 「自己評価」

「自己評価」は、学習目標に対して、自分がどの程度達成することができたかを、自分で評価するものです。

自分の取り組み方や課題を反省し、次の学習に生かしましょう。

### 学びのキーワード

授業の組み立て 3つの段階  
「わかる」「できる」「いきる」

# 3年次の取組

副題：「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手びき」・「学習デザインガイドブック」の活用～

## 4月

4月に「学習の手引き」を生徒へ配布し、学年集会で内容の説明

教師は「学習目標の提示」など、「学習の基本的な指導事項」とした4項目を日常実践で取り組むことを改めて共通理解

## 10月

生徒、教師双方へ、質問を対応させたアンケート調査

## 11月

公開研究会にて本校の研究について外部からの評価をいただく

# アンケートの質問項目

- 1 「学習目標」の提示状況
- 2 「学習目標」の提示の成果
- 3 「学習予定」の提示状況
- 4 「学習予定」の提示の成果
- 5 基礎・基本の指導
- 6 「自己評価」の実施状況
- 7 「自己評価」の成果
- 8 「わかる・できる・いきる」について

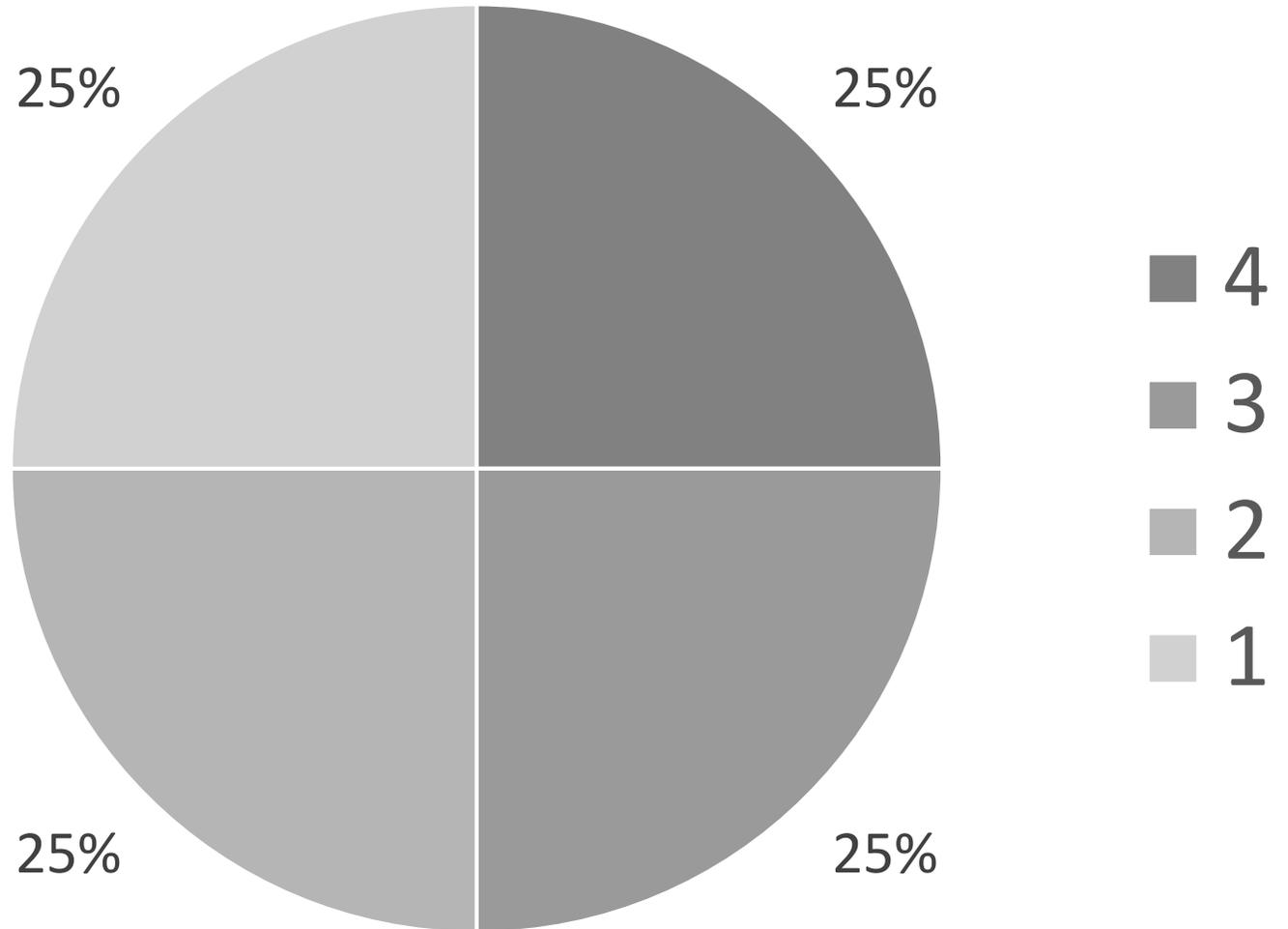
# グラフの読み方

4段階評価 色が濃いほど評価が高い

- 4:十分に評価できる
- 3:概ね評価できる
- 2:あまり評価できない
- 1:全く評価できない

集計数

教師:43 生徒:65

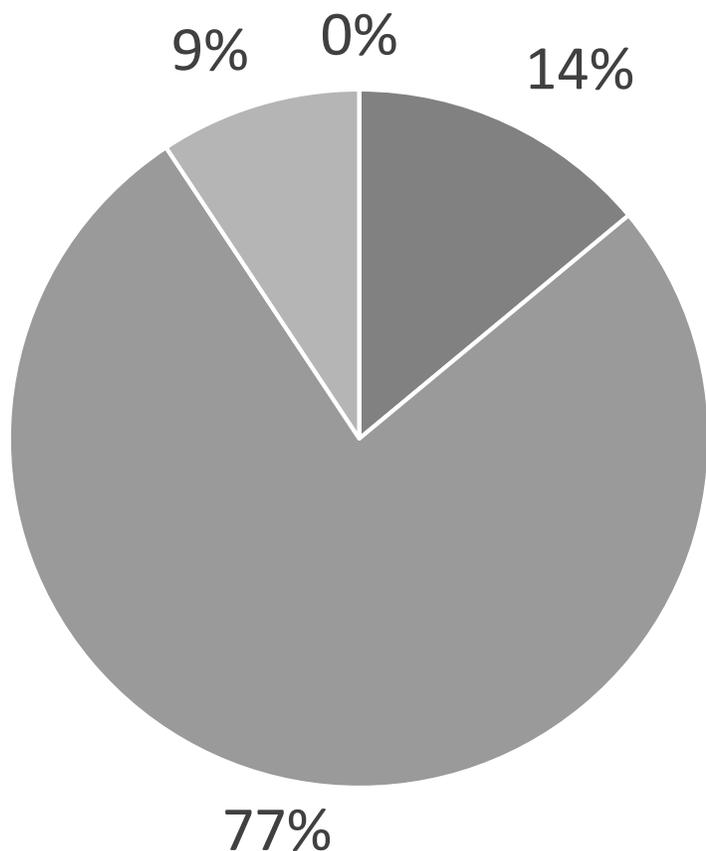


# 1 学習目標の提示の状況

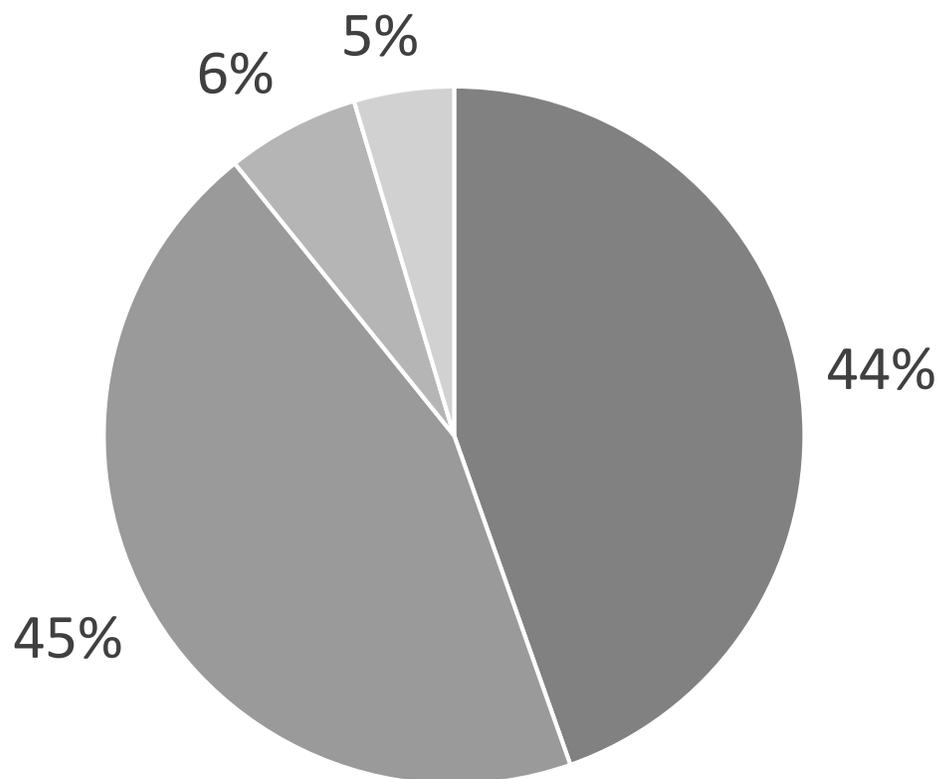
教師:教科の特性等に応じて適切に設定し提示しているか

生徒:どの授業でもわかりやすく提示されているか

## 教師の評価結果



## 生徒の評価結果



生徒のコメントから

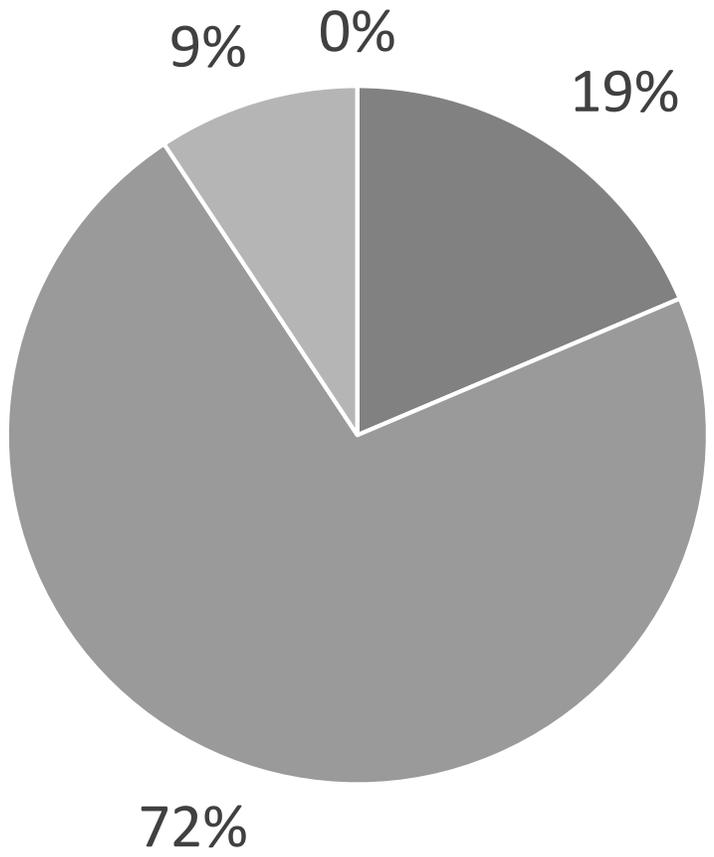
- 授業の最初にわかりやすく示されている
- 黒板やスライドに書いてあり理解しやすい
- 意識していない
- 目標が曖昧だから

## 2 学習目標の提示の効果

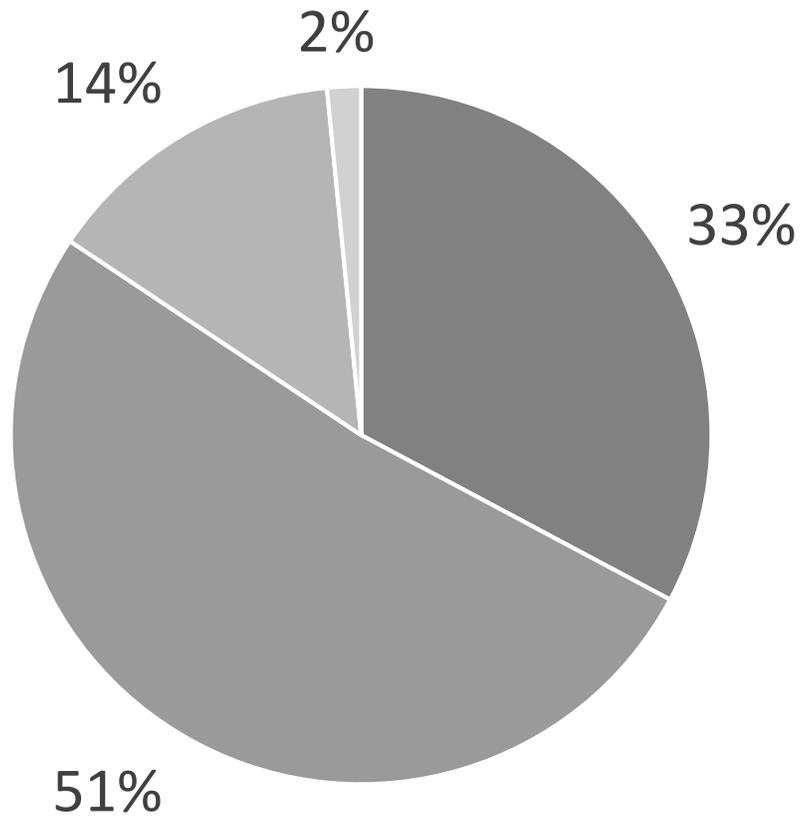
教師：提示により生徒が主体的に取り組んでいるか

生徒：何ができるようになるか理解し見通しをもって取り組んでいるか

### 教師の評価結果



### 生徒の評価結果



生徒のコメントから

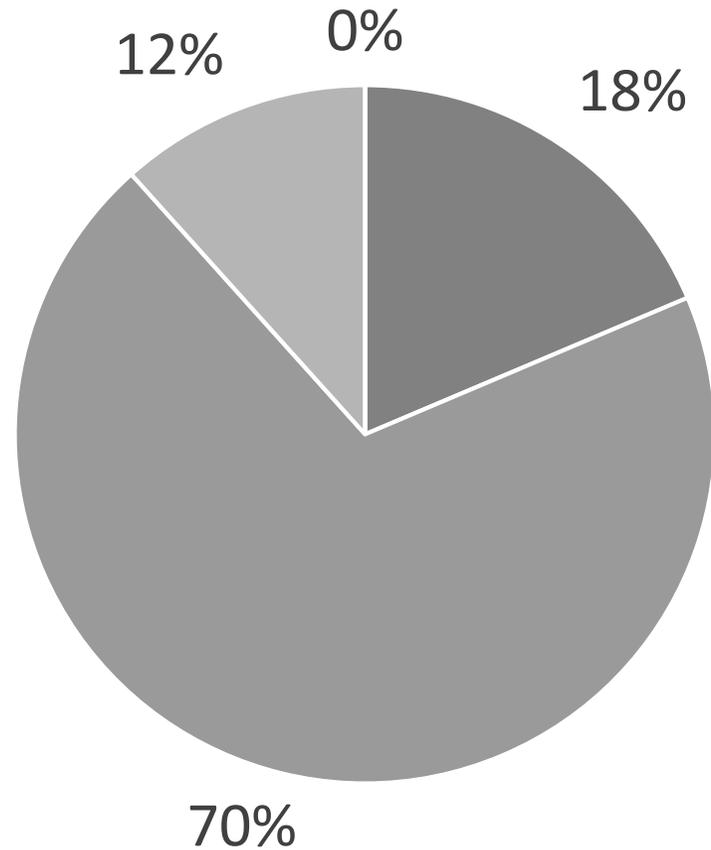
- 一つの目標に向かって進めていると思う。
- モチベーションにつながりやすくなります。
- 先生に言われてやっている。
- 見通しをあまり持っていない。

### 3 学習予定の提示の状況

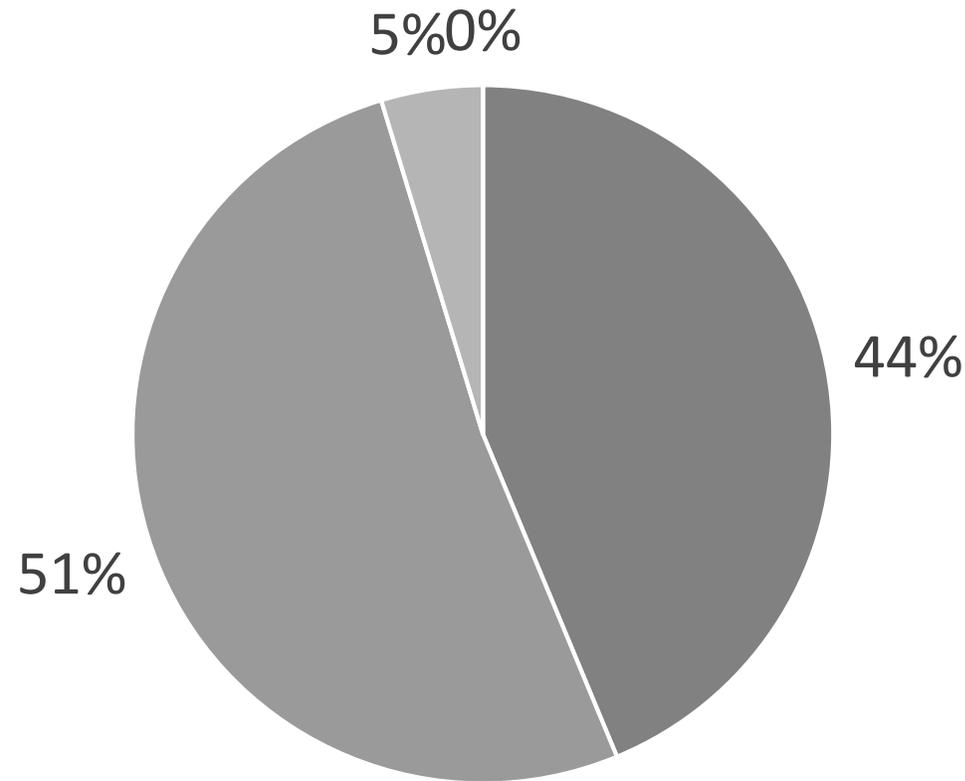
教師:教科の特性等に応じて適切に設定し提示しているか

生徒:どの授業でもわかりやすく提示されているか

#### 教師の評価結果



#### 生徒の評価結果



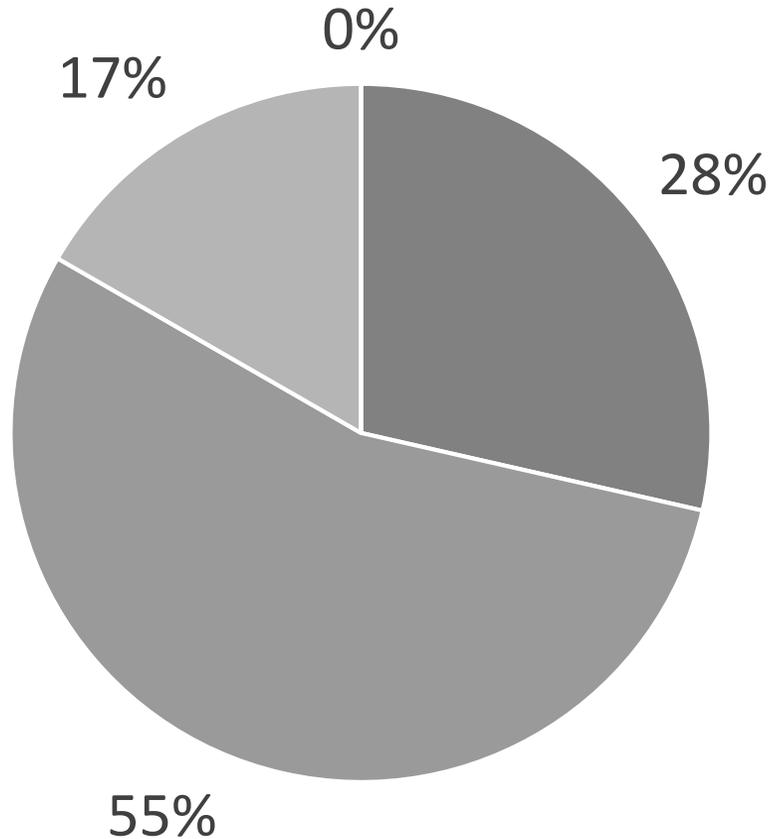
生徒のコメントから  
○授業の最初にしっかりと教えてくれる。  
○よくわかりやすく理解がしやすい。  
●時々変更があった

#### 4 学習予定の提示の効果

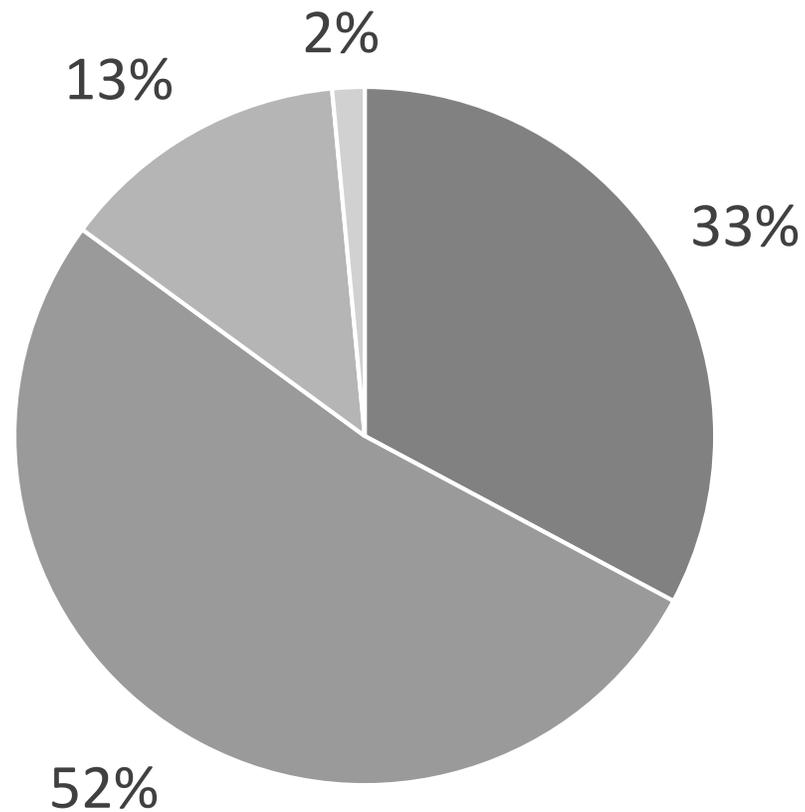
教師：提示により生徒が主体的に取り組んでいるか

生徒：学習の進め方を理解して見通しをもって取り組んでいるか

### 教師の評価結果



### 生徒の評価結果



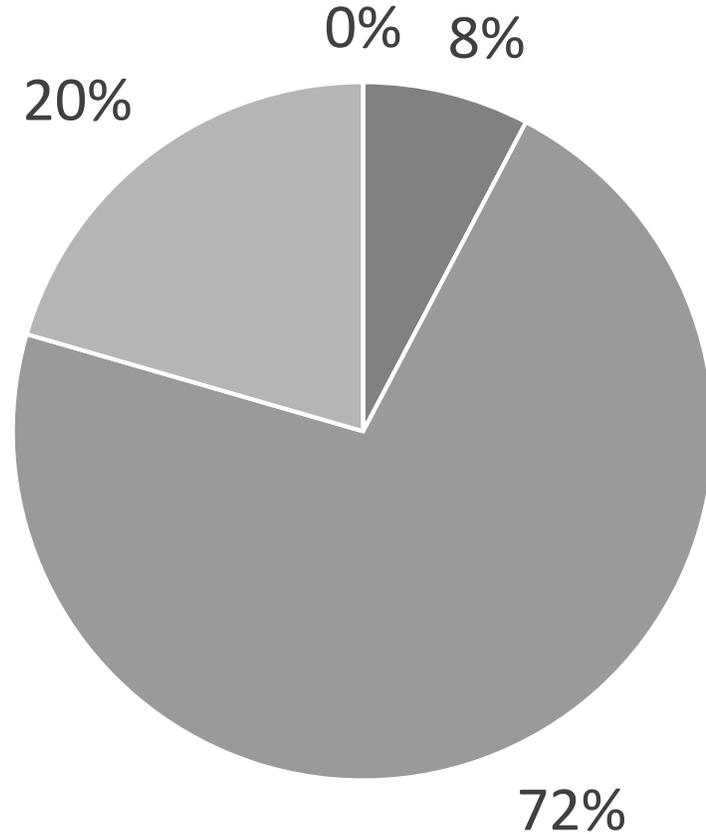
- 生徒のコメントから
- 授業の進め方がわかりやすい。
  - ちよつと無視してしまうことがある。
  - 見通しをもっても忘れてしまいます。
  - 授業が潰れて納得しないことがあった。

## 5 基礎・基本の指導

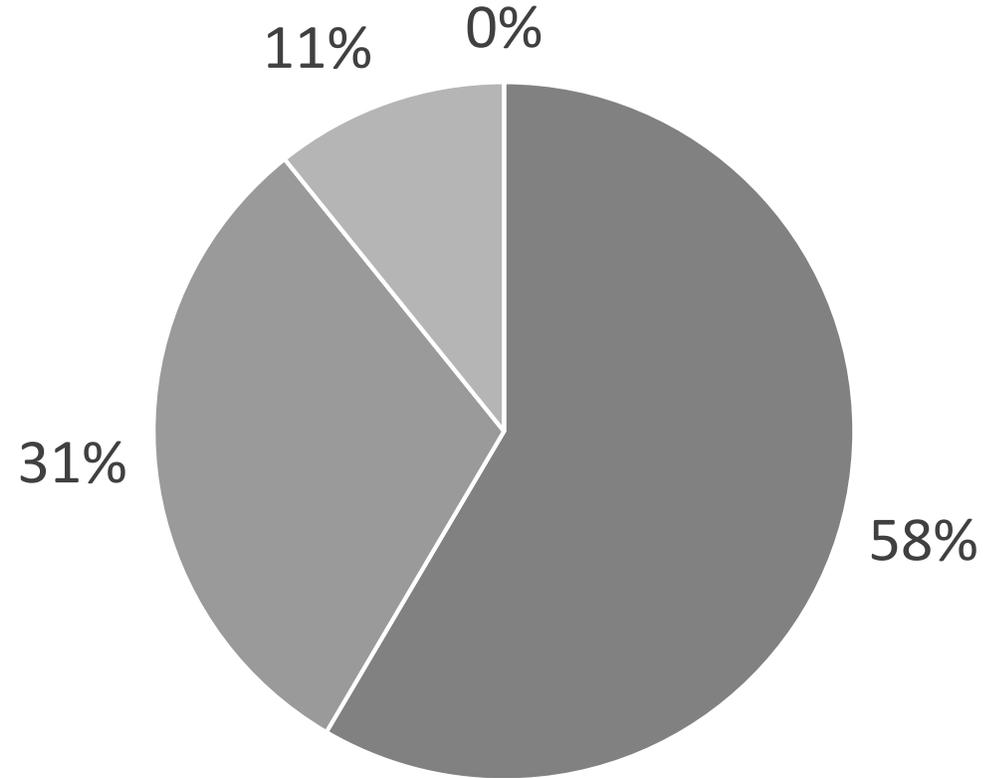
教師：基礎基本を十分に身につけた状態で学習に取り組んでいるか

生徒：どの授業でも基礎基本がわかりやすく指導されているか

### 教師の評価結果



### 生徒の評価結果



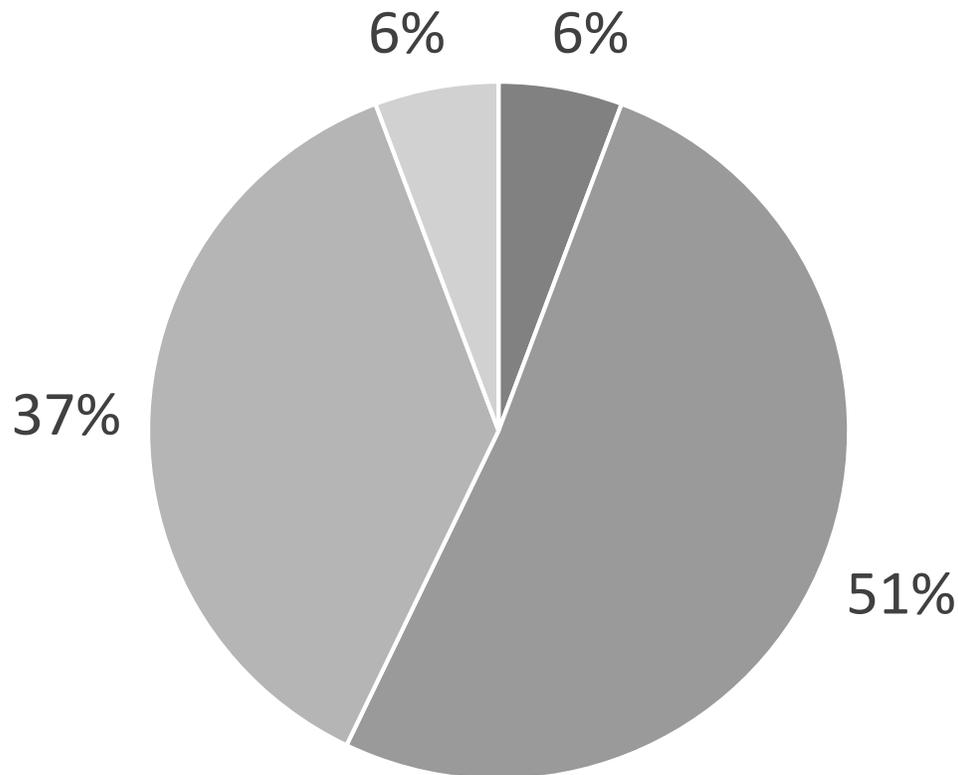
生徒のコメントから

- 重要なことは初めのうちに指示される。
- スライドなどで説明してくれる。
- 作業学習ではそう思う。
- たまに早く言ってくれればと思うことがある。

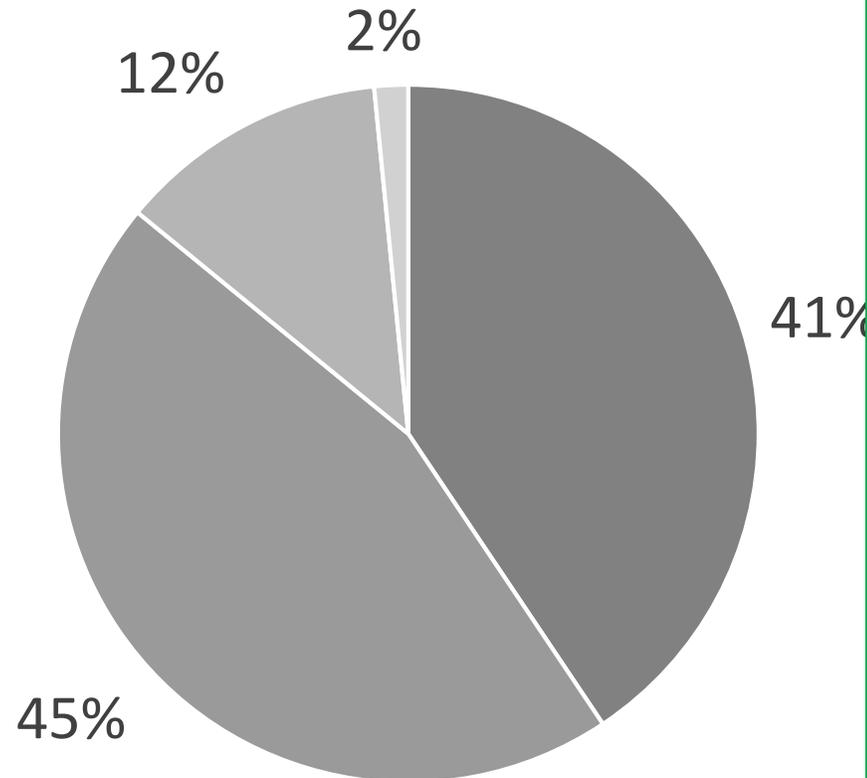
## 6 自己評価の実施状況

教師：‘学習のまとめり’の中で適切に設定しているか  
生徒：どの授業でも行われているか

### 教師の評価結果



### 生徒の評価結果

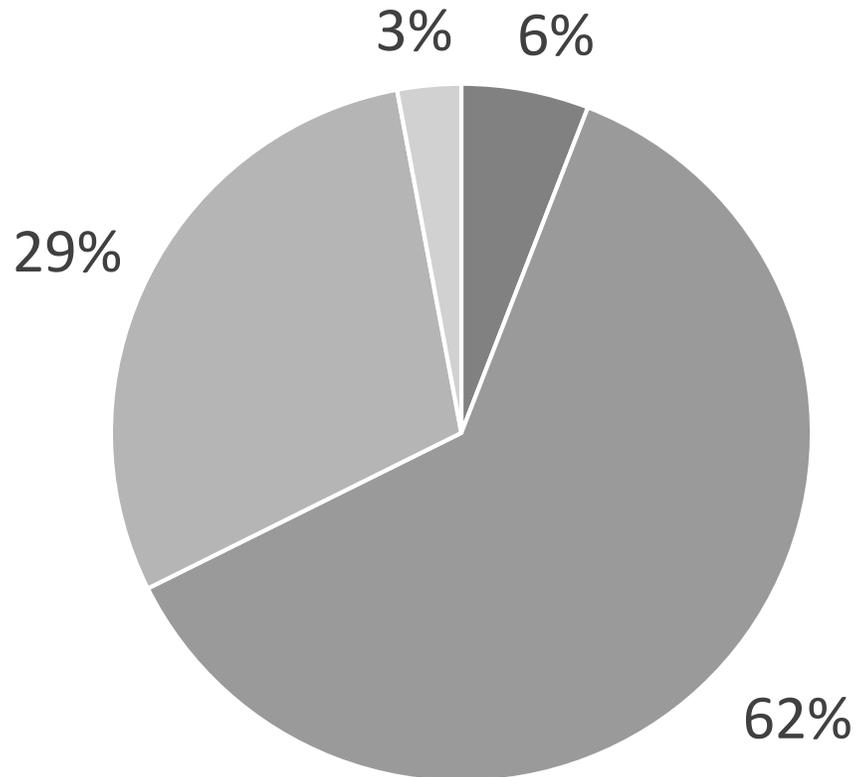


生徒のコメントから  
○ 良い点、課題がわかるので大切だ  
● 作業学習で行われている。  
● 授業による。  
● 行わない授業もある。

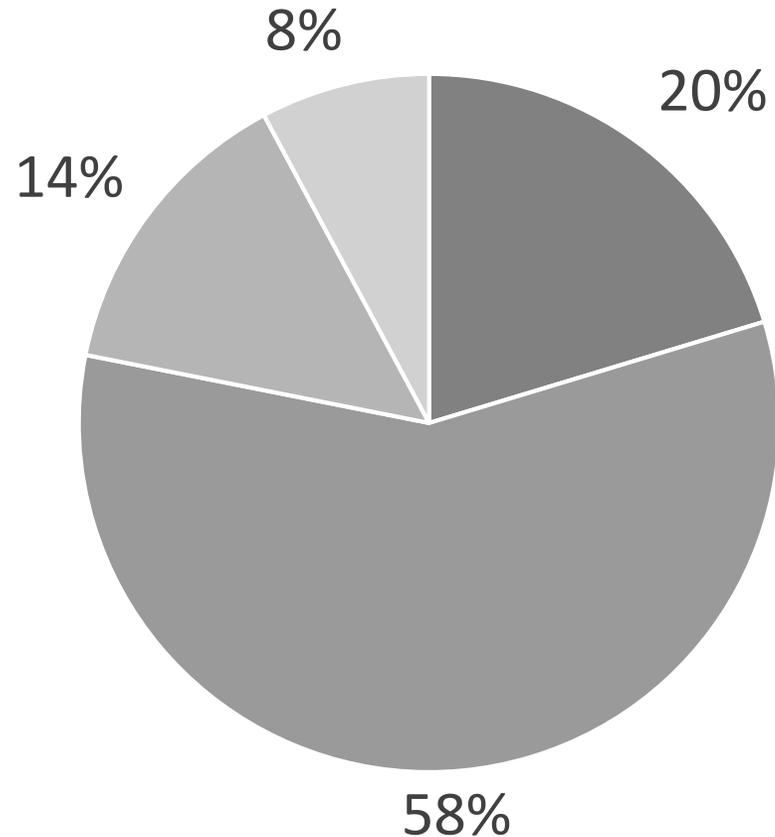
## 7 自己評価の成果

教師：次の学習や他の授業、日常生活に生かしているか  
生徒：次の学習や他の授業、日常生活に生かしているか

### 教師の評価結果



### 生徒の評価結果



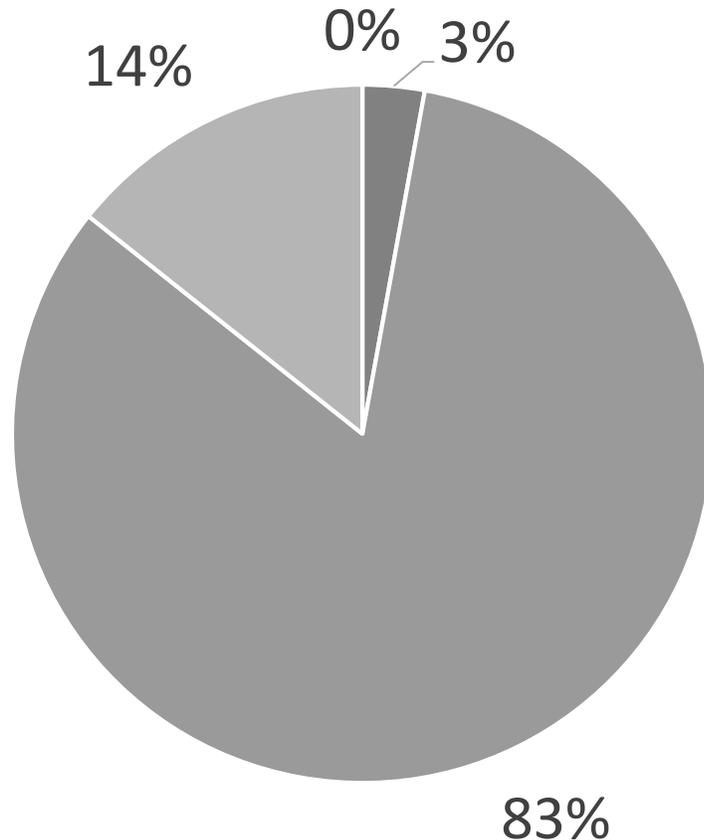
- 生徒のコメントから
- 自己評価を意識して日常生活を送っている。
  - 作業効率が始めより早くなっている。
  - 次の学習に生かすため日誌を書いている。
  - 次の日で忘れず。
  - なおすことがあまりできていない。

## 8 授業を「わかる」「できる」「いきる」で組み立てていることについて

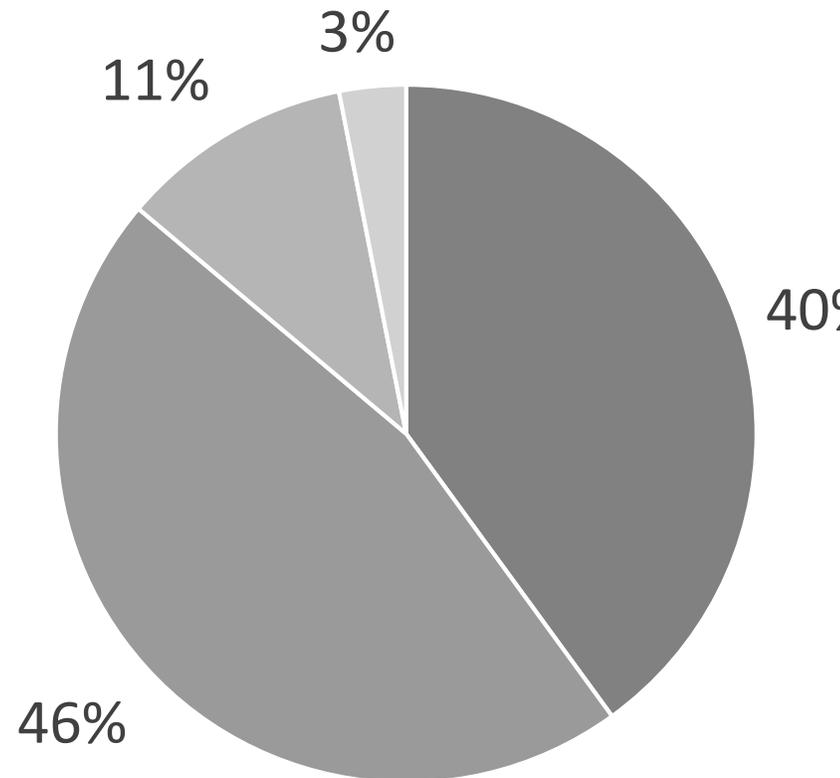
教師：概ねこの組み立てに沿った学習展開をしているか

生徒：このような授業の進め方で授業がわかりやすくなっているか

### 教師の評価結果



### 生徒の評価結果



生徒のコメントから  
○一つの目標に向かって進めていると思う。  
○分かりづらい授業もあるがほとんどがわかりやすい。  
●何でこうなるのと思う場面が結構あった。  
●全部が全部そうではない。

## アンケートの読み取り(成果につながる結果)

① 「学習目標」「学習予定」の提示とその効果、「基礎・基本」の取組については、4、3と評価した割合が生徒、教師とも8割以上である。

②「わかる」「できる」「いきる」による授業については、教師の8割が、「この組み立てで授業を進めているか」、について4、3と評価し、生徒の8割が授業が「わかりやすくなっている」と評価している

## アンケートの読み取り(課題につながる結果)

- ① 教師の43%が「自己評価」の実施について2、1と評価した。
- ② 生徒の41%が「自己評価」の実施について、4(どの授業でも実施している)と評価したが、その効果(評価が次の授業などに生かされている)について4と評価した生徒は20%であった。
- ③ 「わかる…」による授業について4(十分に実践できている)と答えた教師は3%であった。

## アンケートのまとめ

①「わかる・できる・いきる」の視点による授業改善は、教科の特性や、個々の教師の取組の程度により差はあるが、全体としては概ね取り組むことができた。

②生徒は授業の基本的な組み立てや「学習目標」「学習予定」「基礎・基本」の大切さなどを意識できた。

③「自己評価」については‘学習のまとめり’での実施が十分でないことと、次の活動、他の活動に生かされる評価の在り方に課題があることが改めて確認できた。

# 3カ年の研究の成果と課題

## 【成果】

①「主体的・対話的で深い学び」について、学習指導要領の趣旨に基づきながら、授業改善のポイントを「生徒自身の学びになる」ととし、その学びとなるための視点を「わかる」「できる」「いきる」として「学習デザインガイドブック」を作成し、その妥当性を、日常実践を経て考察するなかで、本校としての「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の在り方をまとめることができた。

②「わかる」「できる」「いきる」の視点を生徒にも理解してもらい、授業の組み立てについて生徒、教師が同じ理解をするための「学習の手引き」を作成し、本校における「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を試行した。

# 3カ年の研究の成果と課題

## 【課題】

①「学習の手引き」は今年度の春から使用を始めたばかりなので、生徒のアンケートでは高い評価であったが、それが研究の成果であるかは疑問である。継続して取り組む中で有用性を評価し、更に活用できるように改善していきたい。

②各教師の授業が、より「生徒自身の学び」となるよう、「わかる」「できる」「いきる」の視点での授業改善に引き続き取り組み、それぞれの日常実践の充実を図りたい。特に‘学習のまとめり’における自己評価を適切に行い、学んで得た力を次の学習や日常生活などに、より生かせるようにしていきたい。

③本校の研究の妥当性については、これまでもいくつかの外部評価をいただいていたが、3か年のまとめとして、改めて客観的な評価を参考に、研究の成果をまとめたい。

※研究仮説の検証は公開研究会の参加者アンケートをもとに行います。

結び～3カ年の研究に取り組んで～

・「主体的・対話的で深い学び」とはどういうものか、に答えられる研究になったとはっきりとは言えないが、そのポイントを「生徒自身の学びとなる」こととし、その視点を「わかる」「できる」「いきる」とまとめたことが良かった。

・日常実践で学校全体で取り組むということで、内容の協議や共通理解のための時間が十分に確保できなかったが、みんなで協力しながら取り組んできた。研究の充実と、時間の確保、みんなで意欲的に取り組める内容や進め方の設定が難しい。

## 公開研究会 アンケート結果のまとめ

- ・外部参加者、本校職員いずれも、どの項目においても、4段階に換算して平均が‘3’以上となっていることから、良い評価が得られている。
- ・「3」の、(1)本校の研究が「主体的...な学び」の実現に向けた授業改善の趣旨に沿った取組となっているか、についてと、(2)「わかる...」の視点及び「ガイドブック」「手引き」の活用については、外部参加者から‘3.5’、‘3.6’の評価を受けており、研究の内容は客観的にもプラスの評価を受けることができた。
- ・各公開授業および分科会（研究協議）」についても‘3’以上の評価を得ていることから、公開授業による実践発表においても、研究に沿った取組が評価されていると考える。
- ・研究のまとめは、公開研の外部評価を得て最終的なまとめを行うこととしていたので、アンケート結果を踏まえた上で、研究仮説の検証及び校内研究の最終的なまとめを行う。

## 研究仮説の検証

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方を、学習活動が「生徒自身の学び」になることと押さえ、そのような学習活動となるための基礎・基本としてまとめた「わかる」「できる」「いきる」視点による学習指導と「学習の手引き」の活用により、生徒と教師が同じイメージをもって学習に取り組んだことは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善として、その趣旨に沿った取り組みとして妥当であり、実践を経て、ある程度の成果を得ることができたものと判断し、仮説は検証されたとするが、今後も各教師がこの視点を活用しながらそれぞれの授業改善を更に充実させていくことが肝要であることを全体で確認し、仮説の検証とする。

「4 今年度の研究の視点  
(3)単元・題材指導計画の  
作成、改訂作業」について

# 校内研究での単元・題材指導計画 の取組各グループの反省から

質問	回答の選択肢	回答数
(1)担当教科等の単元・題材指導計画の作成状況は？	①全て・概ね作成できている	0
	①②の間	1
	②5割程度できている	4
	②③の間	5
	③ほとんどできていない	7
	④確認していない(→理由記入)	1
(2)今後の作成についての見通しは？(複数回答可)	①作成担当者を決めるなど見通しあり	6
	②教科会議で作成することは確認した	7
	③作成上の課題があり進展していない	6
	④作成の見通しを確認していない	7
(3)「(2)」で③と回答した方は、どのような課題があるかご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文言などを少し変えるとよい</li> <li>・指導配列表は制作したが指導計画の作成は少し負担を感じている。</li> <li>・教科会議いつも3～4名のみ</li> <li>・行事を担当する部署で制作していく方向で検討中のはず。</li> </ul>	
(4)校内研究で単元・題材指導計画の作成についてグループで取り組んだことの成果は？(複数回答可)	①計画作成が進んだ	4
	②作成上の課題が明確になった	8
	③時間が足りなかった	10
	④やることが分からなかった	0
	⑤取り組んだが成果はなかった	0
	⑥グループ編成に難があった	0
	⑦その他	・公開研と絡めて制作できた

## 単元・題材指導計画作成の18グループの報告から

### ①作成状況

- ・5割程度制作：4グループ
- ・多少～ほとんど制作していない：12グループ

### ②今後の見通し

- ・担当者を決めている、教科会議で作成を進める確認をした：13
- ・課題があり進めていない、見通しを確認していない：13

### ③取組の成果等

- ・制作が進んだ 4
- ・課題が明らかになった8
- ・時間が足りなかった10

# 単元・題材指導計画作成の取組の成果と課題

## 【成果】

- ・各教科等の作成状況をそれぞれ確認し、作成上の課題を明らかにできた教科もあった。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点からも、シラバスの学習内容に対応して、各教科等で作成するものとすることを全体で確認した。

## 【課題】

- ・作成の課題の解決の見通しがもてない。
- ・時間の確保

## 再確認(校内研究5で確認した内容)

本校における単元・題材指導計画についての押さえ

「単元・題材指導計画」は、カリキュラム・マネジメントの視点および、各教科等の指導内容について、教育課程上の位置付けや育成すべき資質・能力を明らかにし、学習目標の達成に向けて学習活動を効果的に計画するために、シラバスの学習内容に対応して各教科等で作成するものである。

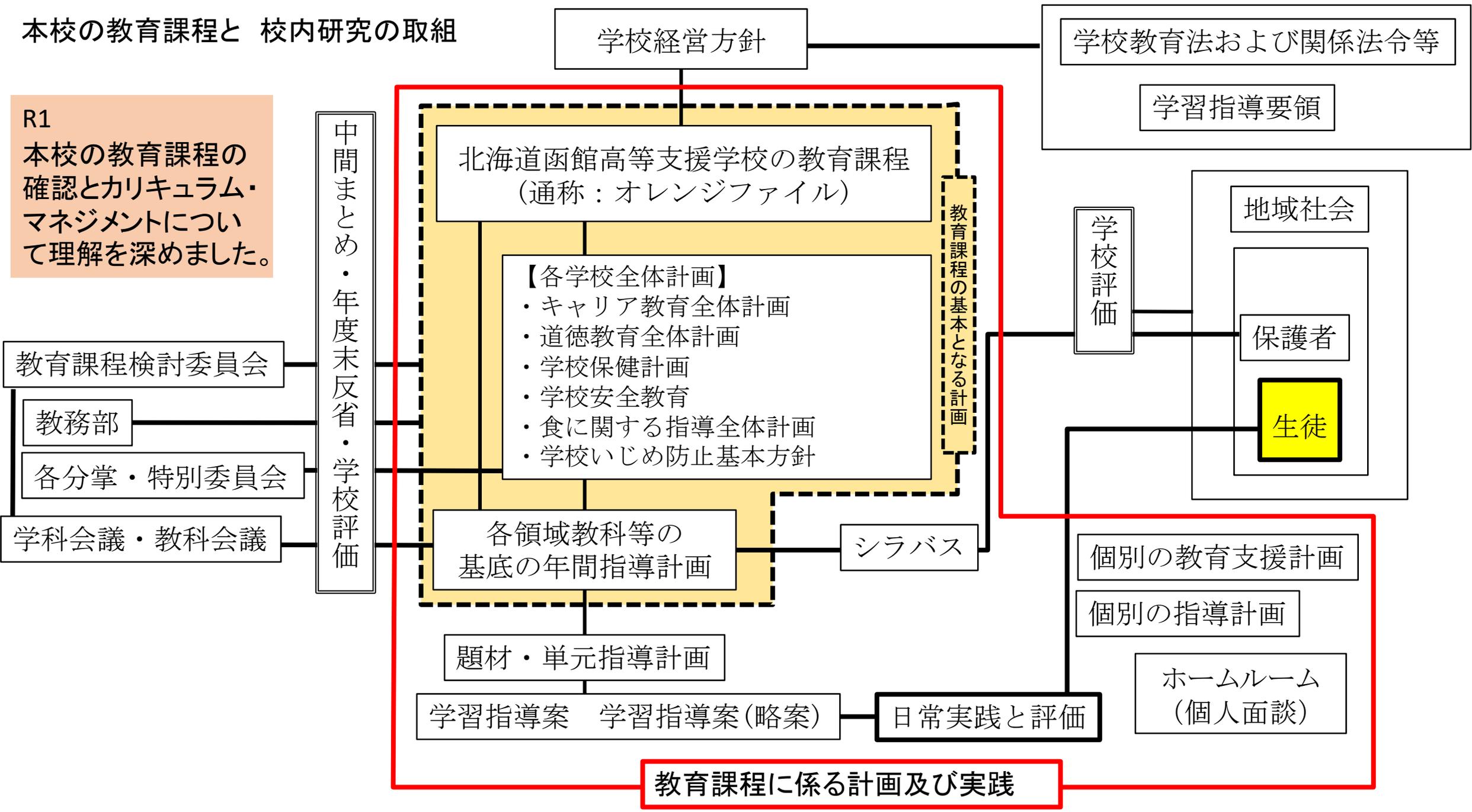
# 今後の単元・題材指導計画の作成について

- ①「本校における単元・題材指導計画についての押さえ」に基づいて制作する。
- ②計画の作成、整備については各教科会議で行う。
- ③制作した計画は共有フォルダの、「6教科」内の各教科のフォルダに保存する。(保管場所の統一)
- ④行事や他教科との関連のある内容については分掌、教科等関係部署と連携して計画の内容を整理する。
- ⑤作成上の課題がある場合は教科担当者間で共有し、協力して解決を図る。

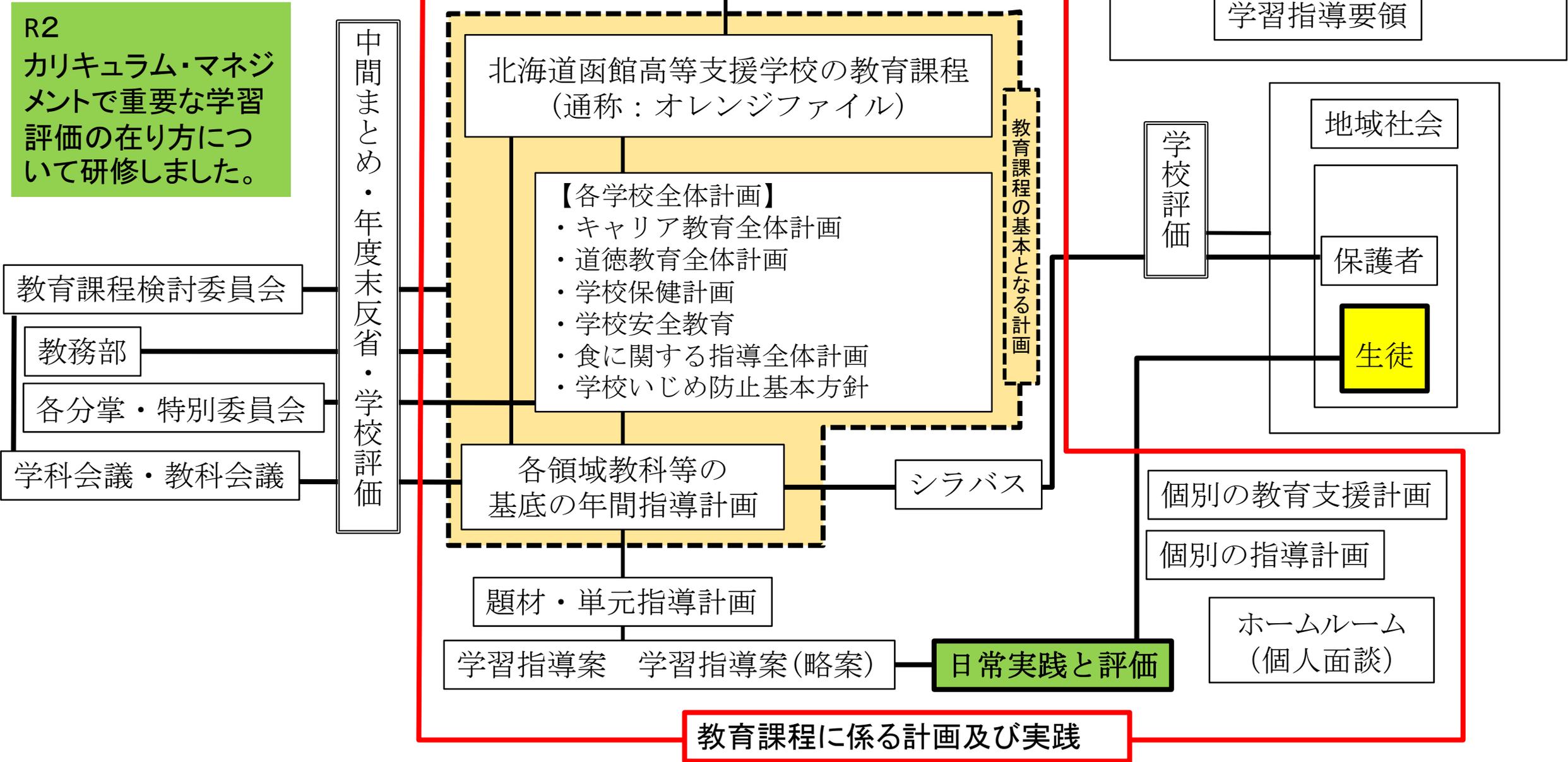
## 2 次年度の校内研究について

# 開校からの研究の取組

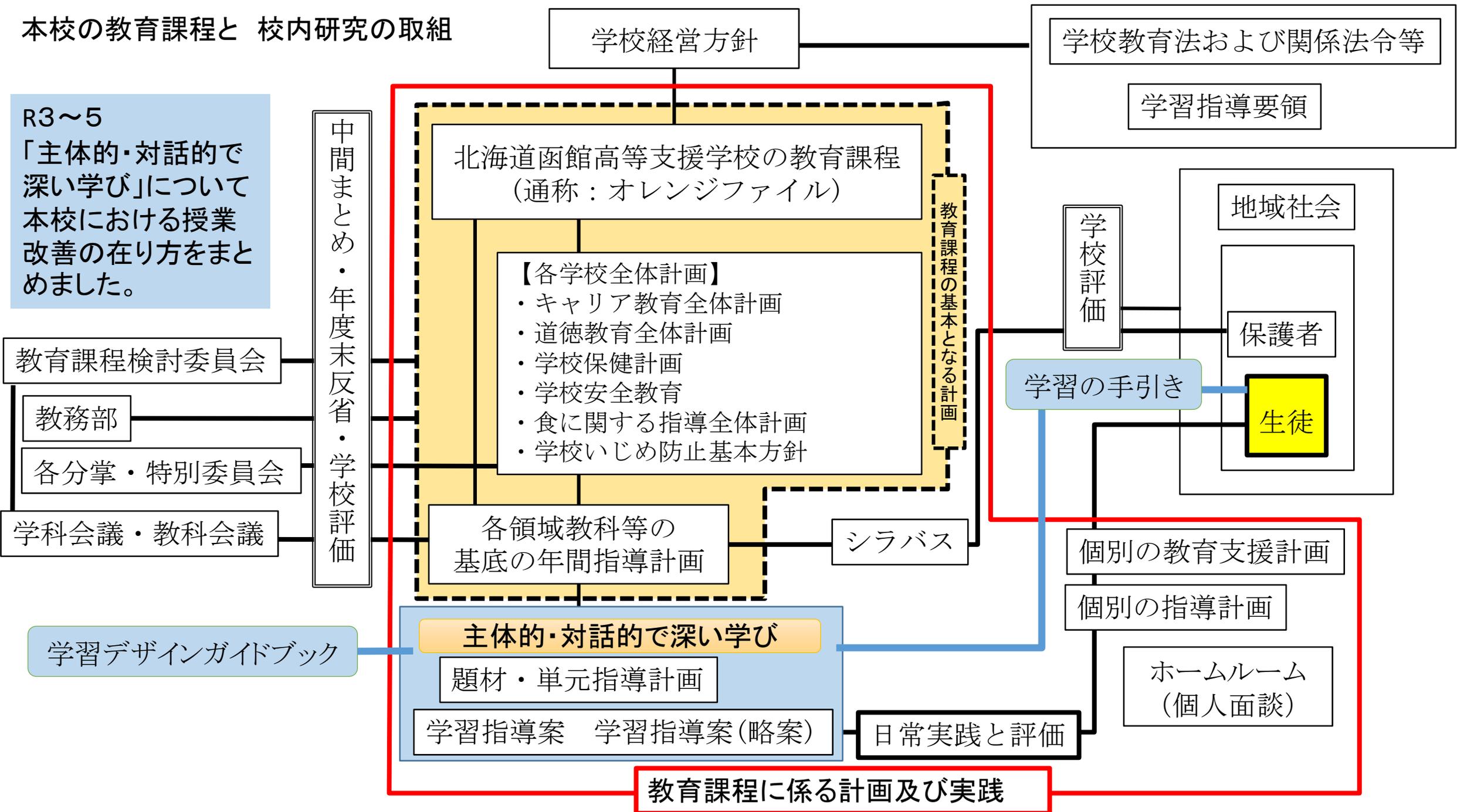
# 本校の教育課程と 校内研究の取組



# 本校の教育課程と 校内研究の取組



# 本校の教育課程と 校内研究の取組



## これまでの研究の取組から...

- ・学習指導要領の趣旨に沿い、教育課程の構造や授業改善の在り方について共通理解を図った。

  - カリマネ、評価、「主体的...学び」

- ・今後は、各教科等における内容の整理・充実が必要である。

  - 教科等横断的な視点による学習の充実

    - 各全体計画や単元配列表の活用

  - 単元・題材指導計画の作成、学習のまとまりにおける評価

# 研究の進め方の課題(アンケートなどから)

- ・より教師のニーズに合った内容に
  - 生徒理解・支援の在り方について研修したい
  - より日常実践に生かされる研修を
- ・研修時間・量の設定
  - 負担感がある 活動量が多い
  - 研究以前に、通常の教育課程整備の時間もなかなか取れない
  - 取組内容の説明を聞くので精一杯。みなさんで意見を交流したり、考えたりする場が持てない。参加意欲の低下。
- ・進める側にも困難さがあります
  - スタッフ不足 1分掌並の業務量を3人で。

今後の研究の在り方

# 1 本校の校内研究の目的（今年度までの内容）

- ①本校の教育課程の改善充実を目指す。
- ②教職員の専門性の向上を図る。
- ③教職員の協働意識を高め、チーム学校力を向上させる。
- ④研究の成果を日常実践に活かすと共に、研究成果を積み重ね、指導・支援におけるHKSスタンダードの確立を目指す。

→次年度も踏襲

## 2 校内研究計画の方向性

### ①単年度研究

- ・学校課題に即し、実効性のある成果の出せる内容としたい。

### ②実践研究(研究授業の実施)

- ・日常の学習指導力の向上のため、開校以来の研究授業の実施を継続

### ③教師が主体的に取り組める内容、進め方

- ・必要性が感じられる内容。研修の時間と量の適切な設定
- ・係主導ではなく、グループが主体となって進める。
- ・年間を通して1つの研究に取り組むことにこだわらず、学校課題に関連する複数の研究に取り組む。

### 3 令和6年度校内研究について(案)

#### 1 研究テーマ

教育課程と学習指導の改善充実～開校から5年間の成果と課題を基に～

#### 2 研究内容

(1)学科・教科研究(4回)

(2)生徒理解、支援方法についての研究(2回)

(3)授業研究

# 研究内容の概要 (1)学科・教科研究

## ア 研究グループ

- ①自立活動 ②道徳 ③TKK ④普通科職業及び総合
- ⑤職業学科作業学習 ⑥その他(アンケートにより設定)

## イ 研究内容:「主体的...学び」に向けた授業改善

○教材開発

○シラバス・単元・題材指導計画の作成、見直し

○教科等横断的な視点による指導の充実

## ウ 進め方

- ・教育課程検討委員会、教科会議と連携
- ・希望を集約しグループを編成
- ・年度末に各グループの研究成果を発表

## 研究内容の概要 (2)生徒理解、支援方法についての研究

- ・これまでのアンケートの中で実施を希望する声がありましたので、ご意見をいただき、実施を検討したいと思います。
- ・ただ、ねらいややり方を工夫しないと、ただそれぞれの指導観を述べて終わりということになりかねません。
- ・このような取組が必要か、どのような形で行えばよいか、広くご意見をいただき、実施について検討します。

### ＜取り組み方の例＞

- ①支援の方法についてみんなで話し合いたいと思う生徒を数名抽出する。
  - ②グループに分かれ、抽出生徒への支援の在り方を話し合う。
  - ③グループで話し合ったことをまとめて全体で交流する。
- 実施の賛否、方法等アンケートでお寄せください。

# 研究内容の概要 (3)研究授業

ア 校内研究として、本校在籍中に1人5年に1回研究授業を行うのはどお？

イ 研究授業のテーマは、各年度の研究主題、内容に合わせて設定します。

次年度：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善」

ウ 次年度1回目目の校内研究で各自の実施年度を決めます。(くじ引き・談合)

エ 研究授業で制作するもの：単元・題材指導計画・学習指導略案(校内研究用)

オ 研究授業の実施日は、①校内研究会を設定 ②校内研究授業週間を設定

③授業者が任意に設定 などから考え、今後計画。(当面公開研はしない)

カ 初任段階対象者は3年目までは、毎年研究授業を実施します。(来年いない)

## 4 研究としては取り組みませんが・・・

### 1 学習デザインガイドブックと学習の手引きの扱いについて

#### (1)学習デザインガイドブックについて

ア 基本的な指導事項4項目(学習目標・予定、基礎基本、自己評価) は、教科等に合わせた形で日常の指導で継続。

イ 新赴任者には着任時の研修で配布、説明。

ウ 内容の見直しについては教務部研究係で行っていく。

#### (2)学習の手引きについて

ア 2, 3学年は学習のルールとマナーの確認を年度始め、学期末等に学年集会等で実施。

イ 1学年については年度始めの学年集会等にて内容全般について説明。

ウ 内容の見直しは教務他、各教科、分掌等に割り振る。(今後提案)

# 「学習の手引き」 R6年度版について

「学習のルールとマナー」の  
後に、「メモを取ろう」という  
項目を付け加えることをこの  
場を借りて提案します。

ご意見ください。



人は話を聞いて覚えてつもりでいても、時間が経つと忘れてしまいます。

学校生活の中ではいつもメモを持参し、必要なときにすぐにメモを取る習慣を身に付けましょう。

【メモを取る場合のポイント】

- 授業の終わりや SHR で連絡のあった持ち物、提出物などは必ずメモする。
- 講演などの話を聞きながら参考になる内容などをメモする。
- 聞いたこと、見たこと全てをメモしようとしなくて、大切なこと、必要なことだけ、ポイントを絞ってメモを取るように心がける。
- いつでもメモがとれるように、ペンとメモ帳を携行する。

